発問例

●三〇五ページ

問 **◉「説得してみる」（11行目）「眠っている」「遊びにくる」（12行目）などの表現から、筆者が「過去」の小説をどのように捉えていることが分かるか。**

答 いずれも人間に対して使う表現であるため、「過去」の小説を生きているものとしてとらえている。

問 **「鑑賞するために壁に掛けられた絵」（15行目）とは、「過去」の小説のどのような状態を言うのか。**

答 「鑑賞」とは、芸術作品に接してその表現するところをつかみとり、そのよさを味わうことを意味する。「壁に掛けられた絵」とは、「文学史」に記された「評判」にしたがって選別された「芸術作品」が陳列され、その「よさ」に関しても定められている状態を言う。

補 「歴史」は現在の自分も参加しながら作られていくものだという筆者の認識に触れることができる。半ば固定化された「評判」から自覚的に距離をとり、自分自身を基点にした「文学史」を作り出す活動につなげていきたい。

●三〇六ページ

問 **「オモチャみたいなもの」（1行目）という表現から、筆者が「文学史」をどうあるべきと考えていることが分かるか。**

答 既存の「評判」に縛られることなく自由自在に組み合わせて作り上げることができる枠組み。

補 本教材のタイトルの「大人にはわからない」の「大人」とは、既存の「文学史」を疑うという発想を持ちにくい「人たち」を指し、本文中の「なに、子どもみたいなこと言ってるんだい。『文学史』を読んでみなよ。そんなこと、どこにも書いていないぜ。」（三〇五ページ）と「わたし」をたしなめる「人たち」を言う。

問 **◉「いや」（2行目）という否定から、どのような状況や筆者の考えが読み取れるか。**

答 「歴史」をオモチャのように扱う筆者の考えが、決して一般的ではない状況がわかる。そうであるからこそ、実行する必要があると筆者は強く思っている。

語句の研究

●三〇五ページ

10 陳列されているガラス棚 「過去」の小説が「文学史」のなかで、まるで博物館のガラスの展示ケース内に大切に並べられるかのように扱われているということ。

15 鑑賞 芸術作品などを見たり聞いたり読んだりして、それが表現しようとするところをつかみとり、そのよさを味わうこと。